

都市再生整備計画（第2回変更）

わかな
若菜地区

ほっかいどう ゆうばりし
北海道 夕張市

令和4年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

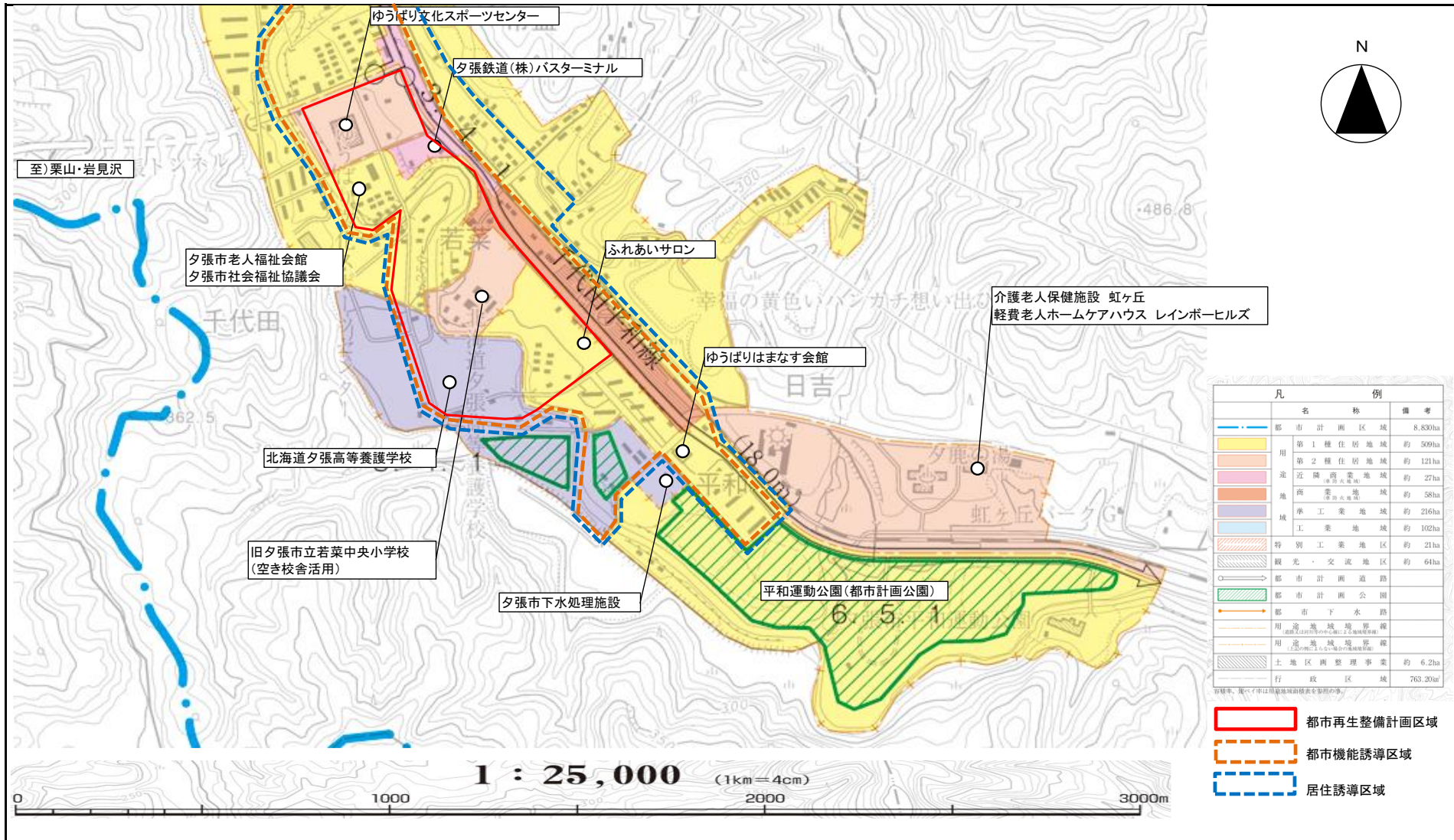
様式(1)-②

都道府県名	北海道	市町村名	ゆうばりし 夕張市	地区名	わかちちく 若菜地区	面積	19.7 ha
計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 5 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 5 年度				

<p>目標</p> <p>【大目標】 住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる環境の整備</p> <p>【小目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な地域医療・介護サービスの提供拠点づくり ・健康寿命の延伸に向けた健康づくり ・地域コミュニティ活動の拠点づくり
<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)</p> <p>本市は、明治21年に炭層の大露頭が発見されて以来、市内各地に点在する炭鉱の坑口ごとに集落や市街地が形成され、社会基盤の整備とともに炭鉱関連施設をはじめ各施設の整備が進み「炭鉱のまち」として発展した。国のエネルギー政策の大きな変化により昭和30年台後半以降、石炭産業が消滅した平成2年までの間、炭鉱閉山が相次ぎ人口はピーク時の約11万7千人から令和2年4月1日には約7千7百人まで激減するなど地域の経済社会構造は急激に変化してきた。人口減少と少子高齢化が進展するなかで、広大な行政区域に集落が分散していることから行政コストが割高で非効率な状況を踏まえ、地域活力やコミュニティの維持、将来的なまちづくりに資する取組を推進するため、平成24年に「夕張市まちづくりマスタープラン」を策定し、まちの将来像を「安心して幸せに暮らすコンパクトシティゆうばり」と掲げ、持続可能な地域社会の構築の実現に向けた取組を進めている。</p> <p>具体的には市内を縦断する主要幹線道を骨格軸に「1都市拠点地区」・「4地区内再編地区」による将来都市構造の形成を目指し、各地に分散する市営住宅の移転・建替えや団地内集約といった居住環境整備の取組を実施している。また、市民活動による多世代交流の促進や交通結節機能を有した拠点複合施設の建設、少子化社会における子育て支援として認定こども園の建設、持続可能な医療・介護サービスの提供を目指す市立診療所等の建設といった、公共施設における都市機能の充実を図る取組を推進している。</p> <p>まちづくりマスタープランの策定から8年が経過し、人口動態や居住環境、地域公共交通体系など、市を取り巻く環境が変化している中で、まちの現況を的確に捉え、将来における人口集中地区への都市機能の集積・強化を図り、まちのコンパクト化を推進する。</p>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>本市は、財政悪化に至った種々の要因を踏まえ、巨額の赤字を確実に解消するため、平成19年に「財政再建計画」を策定、さらに、地方財政再建促進特別措置法にかわり制定された、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき、平成22年に「財政再建計画(以下、計画)」を策定し、歳入の確保や歳出の削減の徹底した取り組みを基本として財政の再建を図っているところである。これにより、徹底した行政のスリム化と事務事業の抜本的な見直しが行われる中、地域や団体が主体となって各種相談窓口や地域住民の憩い・情報提供などの場を築いてきた。また、本計画地区(以下、当該地区)に立地する保健・福祉施設や体育関連施設等を活用し、健康増進や地域コミュニティ拡大に向けた活動をおこなうNPO法人の設立、学校の統廃合に伴う空き校舎の活用などの取組も進められている。</p> <p>一方、現在人口が7,743人(R2.4.1時点)に対し高齢化率が51%を超えており、医療・介護サービスをはじめとした様々な生活不安を抱えていることから、高齢者の方々の生活をしっかりと支えていくためには、医療・介護の複合的ニーズへの対応や生活実態の把握など、より一層の支援を進めていく段階にある。</p> <p>また、令和8年までの計画期間が終了した後も持続的に存立・発展していけるよう、平成28年に計画が抜本的に見直し、民間医療施設の閉鎖にともない医療空白地帯となった当該地区を含めた市内の医療バランスの確保のため、市立診療所等移転改築協議会の議論を経て、当該地区への市立診療所等の移転改築を決定したところである。</p>
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内最北に立地する既存の市立診療所等が著しい老朽化の進行と耐震基準を満たしていないことから移転改築による早期の施設整備が求められている。 ・高齢化が進む中において、今後増加が見込まれる慢性期の医療・介護の複合的ニーズを合わせ持つ高齢化社会に対応した必要な医療・介護サービスの提供が求められている。 ・あわせて生活習慣病等に対する健康課題も多いことから、介護期のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の低下を防止するため、市民一人ひとりのライフステージに応じた健康意識の向上と運動の習慣化による健康増進に向け、関係団体などと連携した取り組みが必要である。 ・地域住民が可能な限り住み慣れた地域で日常生活を営むことができるような生活環境の確保とともに、地域や関係団体と連動した地域包括ケア推進及び住民同士の助け合い・支え合いを支援する地域活動拠点の充実が必要である。
<p>将来ビジョン(中長期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年からの計画の中では、市中心部への将来的な公共施設の集約により都市機能を充実し、コンパクトで効率的なまちづくりを目指すこととしており、地域再生の取組みとして、市立診療所等移転改築など効率的な整備を掲げている。 ・現行のまちづくりマスタープランでは、「豊かな生活の確保・推進」や「地域活力の推進」などをまちづくりの基本目標として掲げ、取組の基本方針では、「スポーツや地域交流の促進」や「安心して暮らすことができる生活環境の整備」などを掲げている。 ・本地区においても、市民の生活環境の充実などを図るべく、新たな市立診療所等を核とした医療・介護サービス機能の強化、市民の健康増進、地域におけるコミュニティ活動の促進を目指す。 ・なお、当市では令和2年度中に立地適正化計画の策定と、それに伴うまちづくりマスタープランの見直しを予定していることから、これらと当計画の整合性を図ることとしている。

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【持続可能な地域医療・介護サービスの提供拠点づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護の複合的ニーズへの対応に向け、入院病床を確保し総合診療を中心とした医療施設と併せて、長期にわたり療養を必要とする方のため、長期療養型生活施設である介護医療院を複合化して、市民に必要な地域医療・介護サービスが持続的に提供できる施設として整備する。 ※夕張市立地適正化計画において、都市機能誘導区域への公共施設の集約を図ることを掲げている。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路：市道整備 地域生活基盤施設：案内サイン整備 高質空間形成施設：照明設備 誘導施設：医療施設（診療所） 誘導施設：社会福祉施設（介護医療院 通所） <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域創造支援事業：介護保険施設整備（介護医療院 療養） 事業活用調査：誘導施設利用促進調査
<p>【健康寿命の延伸に向けた健康づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療施設内に、作業療法から理学療法まで様々なリハビリに対応するスペースを確保し、施設入所者のみならず、市民に開かれたリハビリテーション室として整備する。 ・また、屋外には歩行による健康増進に向けた歩行空間（遊歩道）を整備する。 ※夕張市立地適正化計画において、都市機能誘導区域への公共施設の集約を図ることを掲げている。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高質空間形成施設：歩行支援施設等整備 誘導施設：医療施設（診療所） 誘導施設：社会福祉施設（介護医療院 通所） <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域創造支援事業：介護保険施設整備（介護医療院 療養） 事業活用調査：誘導施設利用促進調査
<p>【地域コミュニティ活動の拠点づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療施設内に、診療以外での来所に対応する市民が集いやすいコミュニティ空間を確保し、地域密着の医療・介護情報の発信、相談など、利用者の利便性が向上するスペースとして整備する。 ・また、医療・介護事業者等をはじめとした多職種連携や健康づくり等のセミナー開催、地域活動の実施を可能とする多目的室（スペース）を整備する。 ※夕張市立地適正化計画において、都市機能誘導区域での地域コミュニティ活動の促進を掲げている。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 誘導施設：医療施設（診療所） 誘導施設：社会福祉施設（介護医療院 通所） <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域創造支援事業：介護保険施設整備（介護医療院 療養） 事業活用調査：誘導施設利用促進調査
<p>その他</p>	
<p>【まちづくりの住民参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年 市内の医療・保健・福祉・子育て世代等をはじめ、各連合町内会や患者代表等からなる、夕張市医療保健対策協議会において、「地域医療行動計画」や「市立診療所のあり方」について検討がなされ、答申を受ける。 ・平成27年 地方版総合戦略策定に係る市民アンケートを実施し、今後のまちづくりに対する住民意向などの把握に努めている。 ・平成29年 コンパクトシティの実現に向けて、夕張市の将来像に対する市民の意向・ニーズ等を把握するため、市内の様々な分野の方々と市職員による「まちづくりワークショップ」の開催。 ・平成30年 市内の医療・福祉・介護事業者等からなる、市立診療所等移転改築協議会において、「市立診療所のあり方（答申）」を踏まえた「新診療所等の役割・機能」や移転改築先について合意。 ・令和元年 第Ⅱ期地方版総合戦略策定に係る市民アンケートを実施し、これまでのまちづくり戦略や今後のまちづくりに対する住民意向などの把握に努めている。 <p>新診療所の施設整備に向けて、現診療所の指定管理者に対し、ハード面・ソフト面における課題や望まれる施設整備などについてヒアリングを実施し、運営側や利用者側のニーズ把握に努めている。</p> <p>このほか年に2～3回程度、市内各所で市の政策・施策について市長が説明を行い、市民との意見交換をおこなう「ふれあいトーク」の場を設け、市民のまちづくりに関する理解を深めている。</p> <p>【官民連携事業】</p> <p>※都市再生整備計画区域内で、道路占有特例、河川敷地占有、歩行者経路協定、都市利便増進協定を活用する場合には記載する。</p> <p>【記載事項なし】</p>	

若菜地区(北海道夕張市)	面積 19.7 ha	区域 夕張市若菜・千代田・平和
--------------	------------	-----------------



凡 例		
名 称	備 考	
都市計画区域	8,830ha	
用 第1種住居地域	約 509ha	
用 第2種住居地域	約 121ha	
用 近隣商業地域	約 27ha	
用 商業地域	約 58ha	
用 準工業地域	約 216ha	
用 工業地域	約 102ha	
用 特別工業地区	約 21ha	
用 観光・交流地区	約 64ha	
都市計画道路		
都市計画公園		
都市下水路		
用途地域境界線		
用途地域境界線		
土地地区調整事業	約 6.2ha	
行政区	763.20ha	

- 都市再生整備計画区域
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域

若菜地区(北海道夕張市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	・持続可能な地域医療・介護サービスの提供拠点づくり ・健康寿命の延伸に向けた健康づくり ・地域コミュニティ活動の拠点づくり	代表的な指標	一般外来受診率の増加 (%)	23.3% (令和元年度) →	28.8% (令和6年度)
			特定健康診査受診率の増加 (%)	38.8% (令和元年度) →	54.0% (令和6年度)
			地域コミュニティ活動の促進 (回)	10回 (令和元年度) →	14回 (令和6年度)

